

高橋哲也●編

《理学療法 NAVI》

ここで差がつく “背景疾患別” 理学療法 Q & A

評者 野村卓生

関西福祉科学大学保健医療学部

1966 年(昭和 41 年)の第 1 回理学療法士国家試験合格者 183 名以降, 社会の要請を踏まえた近年にみる急激な養成校の増加により, 2016 年 3 月現在, 理学療法士国家試験合格者は 139,214 名となり, 毎年約 1 万人の合格者が誕生するようになった。現在では, 多くの施設で新人教育の充実化が図られ, 先輩理学療法士のサポートにより, いわば受動型で理学療法士としての経験を積んでいける環境になりつつあると思う。一方で, 一定の経験を積んでからは, 多くは自己努力(能動型)で, より最善・最良の理学療法を提供する方法を追い求めなければならない。しかし, 最近では以前と比べて理学療法にかかわる専門書が多くなったものの, 臨床経験も十分でない若手理学療法士がそれを読み解き, 内容を理解することは容易ではない。

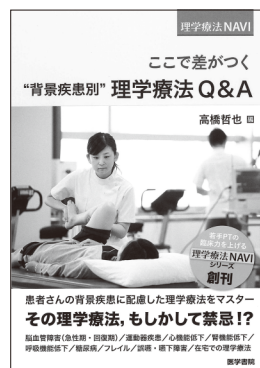
本書は《理学療法 NAVI》シリーズ『“臨床思考”が身につく運動療法 Q & A』(医学書院, 2016 年)の姉妹本であり, 各分野の理学療法に関するエキスパートの臨床思考過程に触れる機会を与える書籍である。

脳血管障害(急性期および回復期), 運動器疾患, 心機能・腎機能・呼吸機能の低下した患者, 糖尿病, フレイル, 誤嚥・嚥下障害および在宅での理学療法に関して, 52 の質問が挙げられ, その質問に対する回答がおおよそ 4~5 ページで端的にまとめられている。

まず, 質問に対して 2~3 つのポイントが短文で述べられている。次いで, そのポイントに対する説明文が, 冗長にならないように執筆者が多くの症例から得た経験と長い時間をかけて専門書を読んで修得した内容を示している。読者の内容の理解を助けるために適所に図表が挿入され, 特に重要な内容に関しては色文字で区別され, わかりやすい。引用・推奨文献も必要最小限にとどめられ, 「です・ます調」

で記載されており, 読みやすい。今さら聞きにくい内容(例えば『運動学習』について教えてください: p.180)についてもコラムとしてまとめているとあり, ありがたい。

臨床経験を重ね, より最善で最良の理学療法を提供しようとする若手理学療法士にとって, 臨床での疑問を解くカギとなり, さらなる臨床力のブラッシュアップにつながる良書である。シリーズのさらなる展開に期待したい。



A5 判・200 頁
定価: 本体 2,700 円 + 税
医学書院刊, 2016 年